

第三者評価結果

事業所名：ふるーる

A-1 利用者の尊重と権利擁護

A-1-(1) 自己決定の尊重	第三者評価結果
【A1】 A-1-(1)-① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	a
<コメント> 法人の理念にもあるエンパワメントの理念に基づき、利用者自身希望や気持ちを出来るだけ自分で伝えていけるように、また出来ることは利用者自身で行い、難しい部分を支援することを基本としています。利用開始時のフェイスシートや日々の支援の中での関係性から利用者への理解を深め利用者の意思意向を確認しています。その情報を職員で共有し個別支援計画に反映していますが、施設職員のみの一方的な見方での支援に偏らないよう、他事業所の職員を交えた合同ケース検討会や、相談支援専門員との連携を強化して、多職種の連携強化を行なっています。	
A-1-(2) 権利擁護	第三者評価結果
【A2】 A-1-(2)-① 利用者の権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
<コメント> 利用者の権利擁護について、法人として規程・マニュアル等が整備され、職員への研修も定期的に行われています。原則禁止される身体拘束を、自傷または他の利用者への危害が及ぶような緊急突発的な状況など、やむを得ない場合に一時的に実施する際の具体的な手続きが定められています。危険が伴う場面での制止や、声掛けせずに身体に触れたりすることがある旨を想定される場面を交えて、行動支援計画書にまとめて説明し、同意書を得ています。定期的にオンブズマンの来所を依頼しており、第三者の視点を取り入れるようにしています。	

A-2 生活支援

A-2-(1) 支援の基本	第三者評価結果
【A3】 A-2-(1)-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a
<コメント> 事業所の目的のひとつとして地域生活への移行を掲げており、長期的な利用者の自律・自立生活のための動機づけとして、地域のグループホームの情報提供や、夕飯体験の付き添いなどの支援も行っています。利用者が「出来ることはなるべくご本人に行っていたく」ことを支援の基本とし、難しい場合、必要な時には迅速に支援しています。利用者自身の心身の状況、希望や気持ちを出来るだけ自分で他者に伝えていけるよう、写真や絵を使用したコミュニケーションカードやスケジュールを利用しています。	
【A4】 A-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	a
<コメント> 利用者の状況に応じて、多様なコミュニケーション方法を模索し実践しています。知的障害（自閉症・ダウン症等の障害）の利用者については、口頭だけでなく、絵・写真・文字盤などを取り入れたコミュニケーションツールやスケジュールを使用して支援しています。精神障害の方には面談場所や面談者を入れ替えながら本人の気持ちを引き出す等支援をしています。困ったことが表出できない場面緘黙の際、絵ではなくキーワードを書いたカードを使用する取組により利用者の使ったことのない能力を引き出すことが出来たケースもあります。	

<p>【A5】 A-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 事業所では緩やかな担当制をとっていますが、利用者は担当者以外の職員とも話したいことを話せる機会を設けています。個別に話を する時間は希望に応じて設けるようしています。相談内容について、日々の申し送りや個別支援会議などでサービス管理責任者をはじめ 関係職員による検討と理解・共有を行っています。また、日中活動の内容を利用者自身が選べるように選択肢を増やしており、その ほかの日常生活の中での意思決定も可能な限り利用者に行ってもらようよう支援しています。</p>	
<p>【A6】 A-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 事業所ではAグループはプットインやマッチングなどのルーティンワークを、B-1、B-2グループはSELFP活動などの日中活動 を提供しています。常に選択肢は多くしており、利用者がその用意されたワークの中からやりたいワークを選ぶことが出来るように しています。各種手工芸品の制作や石鹸の製造などを行なっています。また個別支援計画に基づいて、調理・創作・外出などのグルー プレクリエーションを行っています。近隣の公園散策や、おやつを買いに行ったり、ドライブなどが行なわれています。そのほか、外 部からトランスフィットネス（運動プログラム）や音楽療法も取り入れ、幅広い活動提供を試みています。</p>	
<p>【A7】 A-2-(1)-⑤ 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 日々変化する利用者の障害による行動や生活の状況などを把握し、状態に合わせ、支援方法を調整して職員間で共有しています。重度 支援の対象とされる利用者には個別支援計画とは別に行動支援計画を作成しています。自閉症の利用者も多く、相模原エリアの事業所 を中心とした合同研修「自閉症研修」オンラインを年3~4回の連続研修で行っています。毎回職員が参加し、事例発表などを通じて専 門知識の強化を図っています。</p>	
<p>A-2-(2) 日常的な生活支援</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A8】 A-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 「出来ることはなるべくご本人に行っていただく」ことを支援の柱として、食事、入浴、排せつ、移動・移乗の支援を行っています。 個別支援計画に基づいた支援を行い、半年に1度のモニタリング、及び個別支援会議で計画が利用者の状態にあっているかの確認及び調 整を行っています。また、変化の頻度が高い利用者については日々、日中活動時間の前後などで職員間で話し合いを行い、支援方法の 微調整や新たな取り組み導入の試みを行っています。支援方法が変更になった際は日々の支援記録やグループ会議の記録に残し、職員 間での共有を図っています。</p>	
<p>A-2-(3) 生活環境</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A9】 A-2-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 利用者の日中活動の場や共用部分などは明るく清潔が保たれています。トイレは介助しやすいよう広いスペースがとられており、利用 者の利き腕に合わせて左右対称に設置されているなど工夫された造りになっています。自閉症の利用者については、その日のスケ ジュールが確認できるトランジションエリアを確保しており、日々の活動切り替えがしやすい環境を整えています。利用者出来る限 り快適性を確保するようにしていますが、静かに過ごせる環境や個室の提供、また利用者人数に対しトイレの数が少ないこともあり、 希望の重複や来客の状況により、速やかに提供できない場合もあります。職員が強要することなく日中活動を利用者が選び、ヒーリン グ系のオルゴール音楽を流すなどゆったりとした、時間に追われることのない自由な雰囲気づくりがなされており、利用者アンケート でも雰囲気の良さがあげられています。</p>	
<p>A-2-(4) 機能訓練・生活訓練</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A10】 A-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。</p>	<p>b</p>
<p><コメント> 事業所の支援方針として、支援員は「出来ることはなるべくご本人に行っていただく」というスタンスで支援に臨んでいます。それを 踏まえて個別支援計画を作成しており、利用者自身の力で出来ることは自分の力で行い、難しさがあつた場合は支援会議等で介助方法 を検討し、利用者本人が行いやすいサポート方法を検討しています。看護師・職員により摂食指導なども行われています。機能訓練・ 生活訓練の専門職との連携は今後の課題となります。</p>	

A-2-(5) 健康管理・医療的な支援	第三者評価結果
【A11】 A-2-(5)-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	a
<p><コメント></p> <p>日々の健康管理の一環として、身体障害の利用者や基礎疾患のある利用者については、バイタル記録を取っています。また様々な介助面で利用者の体調の変化、小さな怪我や皮膚の状態の変化などに注意し、変化がある際には常駐の看護師にすぐ相談し、必要に応じて受診のサポートも行っています。家族のサポートによる通院が難しい利用者については、通所中に往診の医師が状態を診察するケースもあります。職員や看護師から日々の利用者本人の状態や気になる様子などを医師に伝えています。</p>	
【A12】 A-2-(5)-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	a
<p><コメント></p> <p>事業所には看護師が常駐しており、利用開始時に提出してもらうフェイスシートと毎年更新している医療情報提供書に基づき、医療的な支援も提供しています。年に2度は救急救命講習の機会を設けており、外部より指導者を招いて研修を行っています。2ヶ月に1回程度のペースで看護師による「ほけんだより」を発行しています。新型コロナウイルスやインフルエンザなど、その時期に流行りやすい感染症の話題や、日々の会話の中で利用者からの関心が高い「予約の仕方」などのトピックを掲載しています。</p>	
A-2-(6) 社会参加、学習支援	第三者評価結果
【A13】 A-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>事業所では手工芸品作成や石鹼の製作などのSELFP活動をしています。地域のまちづくりセンターや体育館、中学校等で収集された、材料のペットボトルキャップの回収や市内の保育園の給食廃油の回収作業、また事業所内で作成した手工芸品を販売してもらっている店舗や、受注作業の受け取りや納品にも利用者が同行し、運搬作業を行っています。また、地域のお祭りや他事業所との合同のイベントなどに積極的に販売出店を行うなど、社会参加の支援をしています。</p>	
A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援	第三者評価結果
【A14】 A-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>事業所の目的として地域生活への移行を掲げており、出来るだけ多くの利用者が望む暮らしに近づけるよう支援しています。地域のグループホームの空き情報や利用可能な制度・施設などの情報を、基幹相談支援センターや相模原市障害福祉事業所協会などから管理者が情報収集し、ニーズのある利用者に情報提供しています。また、相談支援専門員との連携を重視し、サービス等利用計画に基づく担当者会議にはサービス管理責任者や担当職員等が出席できるように調整をしています。家族との連携を図り利用者本人の意向を尊重しつつ地域生活への移行への動機づけや意識づけを行っています。</p>	
A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援	第三者評価結果
【A15】 A-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>年に2回、家族懇談会の場を設定しており、3割程度の家族が参加しています。満足度アンケートの結果、法人やエリアの動向等事業所からの報告が行われるほか、家族同士の交流やグループホームへの移行の際に選択できる環境がない等の要望を受けています。また、送迎の際の対面での情報交換・連絡帳でのやり取りを行っています。利用者の気になる様子、支援方法の相談がある際は随時電話連絡でのやり取りも行っています。自宅での出来事や変化を家族から伝えられることもあり、自宅と通所先との対応の違いなどで利用者が混乱しないよう連携した支援に取り組んでいます。</p>	

A-3 発達支援

A-3-(1) 発達支援	第三者評価結果
<p>【A16】 A-3-(1)-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。</p>	
<p><コメント></p>	
<p>評価外</p>	

A-4 就労支援

A-4-(1) 就労支援	第三者評価結果
<p>【A17】 A-4-(1)-① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。</p>	
<p><コメント></p>	
<p>評価外</p>	
<p>【A18】 A-4-(1)-② 利用者に応じて適切な仕事内容等となるような取組と配慮を行っている。</p>	
<p><コメント></p>	
<p>評価外</p>	
<p>【A19】 A-4-(1)-③ 職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。</p>	
<p><コメント></p>	
<p>評価外</p>	